

令和元年

沖縄全戦没者追悼式



第29回「児童・生徒の平和メッセージ」図画部門 高等学校の部 最優秀賞
沖縄県立糸満高等学校1年 外間 彩音 「あの日との繋がり」

日時：令和元年6月23日（日）午前11時50分～午後0時40分
場所：平和祈念公園（糸満市摩文仁）

沖縄県 沖縄県議会

令和元年沖縄全戦没者追悼式次第

- | | | |
|---|----------|--------------------|
| 1 | 開式の辞 | 沖縄県副知事 |
| 2 | 式辞 | 沖縄県議会議長 |
| 3 | 黙とう | |
| 4 | 追悼のことば | 沖縄県遺族連合会会長 |
| 5 | 献花 | |
| 6 | 平和宣言 | 沖縄県知事 |
| 7 | 「平和の詩」朗読 | |
| 8 | 来賓あいさつ | 内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長 |
| 9 | 閉式の辞 | 沖縄県副知事 |
- ◆
- | | | |
|---|------|--------------------|
| 1 | 総合司会 | NHK沖縄放送局アナウンサー |
| 2 | 手話通訳 | 沖縄県身体障害者福祉協会登録手話通訳 |

式 辞

本日ここに、内閣総理大臣をはじめ御来賓多数の御臨席と、県内外からの御遺族並びに多くの県民の御参列を賜り、「令和元年沖縄全戦没者追悼式」を執り行うに当たり、すべての戦没者のみ霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、御遺族の皆様に心から哀惜の意を表します。

凄惨な地上戦が繰り広げられた沖縄戦が終結してから早くも74年の歳月が流れました。

ここ沖縄の地が軍人・軍属だけでなく、一般住民をも巻き込んだ熾烈な戦場となり、沖縄県民は想像を絶する戦禍の中をさまよい、逃げ場を絶たれ、多くの尊い人命が失われました。また、南洋諸島等におきましても、多数の県出身者が犠牲となりました。

摩文仁の丘に立ち、眼下に広がる穏やかな海を見渡しますと、亡くなられた20万人余の、み霊の嘆き、御遺族の深い悲しみが脳裏に浮かび、歳月を経た今日でも惻隠の情を催さずにはられません。

沖縄には今もなお広大な米軍基地が存在し、県民は基地があるがゆえの不安や危険にさらされながらの生活を強いられております。過重な米軍基地の負担軽減が課題とされていますが、事件・事故などが後を絶たず、改めて沖縄の過重な基地負担の軽減が実現されることを強く望むものであります。

平成29年3月19日には、奄美大島の宇検村船越海岸^{ふのし}に対馬丸慰霊之碑が建立され、私は昨年と今年4月の2度にわたり、慰霊碑に哀悼の意を捧げました。今年の4月には、75年前の昭和19年8月に、救出活動や埋葬作業を行った、語りべの大島安徳さんから当時の貴重なお話しをお聞きすることが出来ました。宇検村の皆様は対馬丸の事件や去る大戦のことを風化させることなく、後世に伝えていく決意を述べておりました。

その一方で、平和を希求する国民の負託を受けた国会議員の一人が、北方領土問題の平和的解決を願う元島民の思いを深く傷つけ、戦争を肯定するような発言がありました。

近年、戦争の悲惨さや残酷さを理解できない風潮の広がり、戦争体験が風化していく状況が危惧される中、平和教育及び地域社会において戦争の惨禍を語り継いでいく取り組みが改めて求められております。

憲法第9条においては、「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と規定されております。この「平和主義」をあらわした条文の趣旨を私たちは改めて認識する必要があると考えております。

本日この式典に当たり、恒久平和を次世代に繋ぎ請け負う者として、憲法の「平和主義」の基本原則に基づき、2度と戦争を起こしてはならないことを20万人余の、み霊の前で固くお誓い申し上げます。

結びに、犠牲になられた全てのみ霊の御冥福と御遺族並びに御参列の皆様のお健勝と御多幸を心から祈念申し上げ、式辞といたします。

令和元年6月23日

沖縄県議会議長 新里 米吉

平和宣言

戦火の嵐吹きすさび、灰燼^{かいじん}に帰した「わした島ウチナー」。

県民は、想像を絶する極限状況の中で、戦争の不条理と残酷さを身をもって体験しました。

あれから 74 年。忌まわしい記憶に心を閉ざした戦争体験者の重い口から、後世に伝えようと語り継がれる証言などに触れるたび、人間が人間でなくなる戦争は、二度と起こしてはならないと、決意を新たにします。

戦後の廃墟^{はいきよ}と混乱を乗り越え、人権と自治を取り戻すべく米軍占領下を生き抜いた私達ウチナーンチュ。その涙と汗で得たものが、社会を支え希望の世紀を拓くたくましい営みをつないできました。

現在、沖縄は、県民ならびに多くの関係者の御尽力により、一步一步着実に発展を遂げつつあります。

しかし、沖縄県には、戦後 74 年が経過してもなお、日本の国土面積の約 0.6 パーセントに、約 70.3 パーセントの米軍専用施設が集中しています。広大な米軍基地は、今や沖縄の発展可能性をフリーズさせていると言わざるを得ません。

復帰から 47 年の間、県民は、絶え間なく続いている米軍基地に起因する事件・事故、騒音等の環境問題など過重な基地負担による生命の不安を強いられています。今年 4 月には、在沖海兵隊所属の米海軍兵による悲しく痛ましい事件が発生しました。

県民の願いである米軍基地の整理縮小を図るとともに県民生活に大きな影響を及ぼしている日米地位協定の見直しは、日米両政府が責任を持って対処すべき重要な課題です。

国民の皆様には、米軍基地の問題は、沖縄だけの問題ではなく、我が国の外交や安全保障、人権、環境保護など日本国民全体が自ら当事者であるとの認識を持っていただきたいと願っています。

我が県においては、日米地位協定の見直し及び基地の整理縮小が問われた 1996 年の県民投票から 23 年を経過して、今年 2 月、辺野古埋立ての賛否を問う県民投票が実施されました。

その結果、圧倒的多数の県民が辺野古埋立てに反対していることが、明確に示されました。

それにもかかわらず、県民投票の結果を無視して工事を強行する政府の対応は、民主主義の正当な手続を経て導き出された民意を尊重せず、なおかつ地方自治をも蔑^{ないがし}ろにするものであります。

政府におかれては、沖縄県民の大多数の民意に寄り添い、辺野古が唯一との固定観念にとらわれず、沖縄県との対話による解決を強く要望いたします。

私たちは、普天間飛行場の一日も早い危険性の除去と、辺野古移設断念を強く求め、県民の皆様、県外、国外の皆様と民主主義の尊厳を大切にする思いを共有し、対話によってこの問題を解決してまいります。

時代が「平成」から「令和」へと移り変わる中、世界に目を向けると、依然として、民族や宗教の対立などから、地域紛争やテロの脅威にさらされている国や地域があります。

貧困、難民、飢餓、地球規模の環境問題など、生命と人間の基本的人権を脅かす多くの課題が存在しています。

他方、朝鮮半島を巡っては、南北の首脳会談や米朝首脳会談による問題解決へのプロセスなど、対話による平和構築の動きもみられます。

真の恒久平和を実現するためには、世界の人々が更に相互理解に努め、一層協力・調和していかなければなりません。

沖縄は、かつてアジアの国々との友好的な交流や交易を謳う「万国津梁」の精神に基づき、洗練された文化を築いた琉球王国時代の歴史を有しています。

平和を愛する「守禮の邦」として、独特の文化とアイデンティティーを連綿と育んできました。

私たちは、先人達から脈々と受け継いだ、人を大切にする琉球文化を礎に、平和を希求する沖縄のチムグクルを世界に発信するとともに、平和の大切さを正しく次世代に伝えていくことで、一層、国際社会とともに恒久平和の実現に貢献する役割を果たしてまいります。

本日、慰霊の日に当たり、国籍や人種の別なく、犠牲になられた全ての御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、全ての人の尊厳を守り誰一人取り残すことのない多様性と寛容性にあふれる平和な社会を実現するため、全身全霊で取り組んでいく決意をここに宣言します。

御元祖から譲り受けてい、太平（平和）世願い愛さしっちやる肝心、肝清さる
る沖縄人ぬ精神や子孫んかい受き取らさね一ないびらん。
幾世までいん悲惨さる戦争ぬねーらん、心安しく暮らさりーる世界んでいし、
皆さーに構築いかんと一ないびらん。
わした沖縄御万人と共に努み尽くち行ちゆる思いやいびーん。

We must pass down Okinawa's warm heart we call
"Chimugukuru" and its spirit of peace, inherited
from our ancestors, to our children and grandchildren.
We will endeavor to forge a world of everlasting peace.
I am determined to work together with the people of Okinawa.

令和元年6月23日

沖縄県知事 玉城 デニー

※方言及び英語の訳

先人から受け継いだ、平和を愛する沖縄のチムグクル（こころ）を後世（子や孫）に伝えなければなりません。

いつまでも平和で安心した世界をみんなで築いていかなければなりません。

沖縄県民の皆さんと共に努力していくことを決意します。

青空を見せたい

石垣市立白保中学校二年

豊里 亮太

戦争への一步は死にいたる一步。しかし、平和への一步は幸せへの一步。

僕の祖母は、よく何かを拝むように青空を見る。じーっと……。そしてその後は、決まって僕に話をしてくる。「あっちの空から戦闘機がバアーッと飛んできたよ。バンバン、ババババンッて、爆弾の音がしたわけよ。はぁー、もう怖くてよお。防空壕に逃げ込んださあ。」この話をする時、祖母の目は陰しくなり、うっすら涙がたまっている。これ以上話をしたら、泣いてしまうから話さない。そんな感じで話は終わる。なぜか、僕も何も聞き返さない。「爆弾に当たった人はいたの?」「防空壕って、どんな感じ?」あとになると聞きたいことは浮かぶのに、こんな表情をしている時の祖母には、何も聞けない。ヒリヒリした祖母の思いを感じるからだ。

あれから七十四年……。七十四年も経ったのに、祖母の心はまだ癒えていない。時間が解決する。時々耳にする言葉だが、祖母には、いや戦争体験者には通用しないことなんだと胸が痛くなる。

戦争があった時、祖母は五歳、祖父は十歳だった。祖母の家族も祖父の家族も爆弾から身を守る、生きること必死だった。戦争で畑も田んぼも作られないから、食べるものは、芋の葉やソテツの実、そして時にはカタツムリだったらしい。カタツムリ……。今の生活では考えられない食べ物である。芋の葉にしても、芋は食べるけど、わざわざ葉っぱまでは食べない。ソテツなんて、観葉植物として見るだけで、ご飯にしようとは思わない。特にソテツの実には飢えをしのぐものとして最適な上に、たくさん自生していたからいっぱい採りたかった。でも、昼間に行動すると爆弾にやられるので、夜になってからしか採りに行けなかったらしい。他に祖父が人の畑の芋を盗んだというのも衝撃的な話だった。曲がったことが嫌いな祖父が芋を盗むなんて……。戦争がなくても貧しかったと言っていたが、戦争が起きたことによって、食物も育てられない、確保できない、さらには祖父の心までも狂わせたのだと思うと、言葉を失ってしまった。さらに、どんな酷いことより祖父を苦しめたのは、母親の死だった。

祖父の母親は戦争マラリアで亡くなった。

八重山は爆弾によって亡くなる人以上にマラリアという伝染病によって亡くなる人が圧倒的に多かった。マラリアとはハマダラカという蚊にかまれて感染するもので、発症すると高熱を出し、ほとんどの人が死に至る。八重山では戦争が始まる前から存在していた伝染病だが、それまでは、マラリアになりそうな所へ行かない事で防いでいた。ところが、戦争が始まり、集落にいたら爆弾でやられるので、山に逃げ入り、そこでマラリアになってしまったのである。もし、戦争がなければ、マラリアになどかかることはなかっただろう。そういう無念の思いから、戦争の時にかかったマラリアを「戦争マラリア」と特別に呼んでいるのである。

その「戦争マラリア」に祖父の母親はかかって死んだ。祖父が小学校五年生の時である。五年生と言えば、僕は学校に行き大好きな野球を一生懸命していた。父や母の命が危ないなんて、一度も想像したこともなかった。それなのに、祖父は戦争に母親を奪われてしまった。祖父は、食べ物に困った話や戦闘機などの話はよく話してくれるが、母親の話になると、「戦争マラリアで死んだ」という事以外、何も話さなくなる。祖父も祖母と同じで、これ以上話したら泣いてしまう。と、色んな思いを胸の奥に押しこんでいるような顔になる。祖父の心も癒やされていないのだと感じた。

戦争で得た心の痛みは、時間が経っても小さくなることなく、体験者の心を痛めている。要するに、何年経っても戦争を過去の話にすることはできないのである。だから、僕はこれからずっと戦争を起こしたくない。それが、祖父や祖母など戦争体験者にできる唯一の癒しにもなるのではないだろうか。

そのために、僕や戦争を体験していない人は身近な体験者から話を聞き、機会を作ってそれを伝えたり、戦争がおきないような政治をしてもらうように声を上げたりしなければならないと思う。

今、僕の島、石垣島には自衛隊基地が作られようとしている。沖縄本島の辺野古でも米軍基地建設が着々と進んでいる。確かに、基地があることで、国や島が守ってもらえる部分はあるかもしれない。それでも、戦争のことを考えると、基地のあるところから戦争が始まるのではないかと心配してしまうのである。どうにか武器を捨て、基地のない国作りはできないものだろうか。

僕はいつまでも祖母に青空を見せたい。

本当の幸せ

糸満市立兼城小学校 六年
山内 玲奈

青くきれいな海
この海は
どんな景色を見たのだろうか
爆弾が何発も打ち込まれ
ほのおで包まれた町
そんな沖縄を見たのではないだろうか

緑あふれる大地
この大地は
どんな声を聞いたのだろうか
けたたましい爆音
泣き叫ぶ幼子
兵士の声や銃声が入り乱れた戦場
そんな沖縄を聞いたのだろうか

青く澄みわたる空
この空は
どんなことを思ったのだろうか
緑が消え町が消え希望の光を失った島
体が震え心も震えた
いくつもの尊い命が奪われたことを知り
そんな沖縄に涙したのだろうか

平成時代
私はこの世に生まれた
青くきれいな海
緑あふれる大地
青く澄みわたる空しか知らない私
海や大地や空が七十四年前
何を見て
何を聞き
何を思ったのか
知らない世代が増えている

体験したことはなくとも
戦争の悲さんさを
決して繰り返してはいけないことを
伝え継いでいくことは
今に生きる私たちの使命だ
二度と悲しい涙を流さないために
この島がこの国がこの世界が
幸せであるように

お金持ちになることや
有名になることが
幸せではない
家族と友達と笑い合える毎日こそが
本当の幸せだ
未来に夢を持つことこそが
最高の幸せだ

「命どう宝」
生きているから笑い合える
生きているから未来がある

令和時代
明日への希望を願う新しい時代が始まった
この幸せをいつまでも